

朝鮮語ハルピン方言話者の、日本語のアクセントと疑問文イントネーション

呂海玉

要旨

(1)ハルピン市における朝鮮語話者(一型・無アクセント)が話す日本語のアクセントの特徴は、品詞・拍数別にみて、以下のようである。

- 2拍名詞 [○]○と○[○]の両方の音調が現れる話者が多いが、初級話者ではほとんど前者だけだった。
- 3拍名詞 ○[○]○が多い。
- 4拍名詞 ○[○○]○が多い。
- 2拍動詞 [○]○が非常に多い。
- 3拍形容詞 ○[○]○が非常に多い。

「-2型」の傾向が非常に顕著だと言える。しかし、これはハルピンの朝鮮語の音調とも似ているので、一般的な-2型によるものか、母語の干渉によるものかはっきりしない。2拍名詞については、初級話者だけが、ハルピンの朝鮮語の影響で、語頭の子音・母音がアクセントと関係があるようだった。但し、学習者の日本語レベルとアクセントの正解率の関係はあまり明瞭ではない。上級者でもアクセントの成績はよくない人もあった。

(2)疑問文イントネーションについては、「なにかのむ?なにをのむ?なにかのみますか?なにをのみますか?」の4文を分析した。上級レベルの話者は正しくイントネーションを習得しているようだったが、初級の一人の話者は「のむ」と「のみます」の核が消えている。また、中級の話者には、丁寧体の場合、WH疑問文とYN疑問文で日本語標準語話者の日本語に見られない文末下降現象が見られた。これらはハルピンの朝鮮語の影響の可能性もある。